

研究主題

「自他のよさに気づき、豊かな生活を創りだす子ども」

■エピソード

第4学年2組の総合的な学習の時間「高嶺駅をきれいにしよう」での一コマです。

地域にある高嶺駅。子どもたちは高嶺駅及び周辺の汚れが気になり、自分たちの手できれいにしようとごみ拾いの活動に取り組んでいた。ある日、駅周辺の雑草が多いことに気づき、そこもきれいにしようと、午前中草取りに出かけた。天気も味方し、約1時間程度で、とてもきれいになった。子どもたちは満足そうな笑顔を浮かべ学校に戻ってきた。ちょうどお昼頃、学校に一本の電話があった。高嶺駅の近くに住んでいらっしゃるTさんという方からだった。「高嶺駅周辺を美しくしようと、花の苗を植えていたのだが、子どもたちから花壇を踏まれてしまった。」この一本の電話に、子どもたちも担任も顔面蒼白。地域の方も、高嶺駅を花できれいしようとしていたことに初めて気づく。もちろん故意ではなかったが、自分たちがしてしまったことのお詫びに、すぐにTさんのところへ向かった。「だいじょうぶ。みんなの気持ち、うれいいます。次にまた苗を植えるから一緒に植えてみない？」今まで下を向いていた子どもたちの視線はTさんに注がれ、凍っていた表情がみるみる輝いていった。「もちろんです！がんばります！」



さて、ここには子どもたちにとってどんな学びの価値が存在していると思えますか。

■他（ひと・もの・こと）から学ぶ自分。学び続ける自分へ

長岡小学校では、6年前より特別活動を研究の窓口に、自分たちの手で自分たちの暮らしを創ることを大切に考え、学級づくりや学校づくりに取り組んできました。学びの主体が本当に子ども自身になるように、他と意見を交流しながら、生活上の問題点を見つけて話し合い、協働的に解決してきました。しかし、子どもの興味・関心が社会的な出来事に向かい、学習が本物になればなるほど、教科の枠組みを超え、学校という垣根を超え、子どもたちを取り巻く地域の「ひと・もの・こと」そのものが教材となってきたのです。よって、これまで取り組んできた学級活動での学びを核としながらも、2年前より「総合的な学習の時間」をもう一つの研究の窓口として、実践を積み重ねてきました。

■研究の4つの視点

以上のような経過で、今年度の研究の視点を以下の4つとしました。授業を核としながらも生活全般で子どもの育ちが導かれるように全職員で課題を共有しながら、研究を進めています。

- 視点1 「探究」**
子どもが地域・社会とかかわり、課題を見出し問題の解決に向けて自ら計画を立て生活しているか
- 視点2 「思考・判断・表現」**
子どもが失敗や自分と異なる考えに学び、さらによりよいものをめざして表現しているか
- 視点3 「つながり・かかわり」**
子どもが場や状況、相手に必要なことを考え、つながり・かかわりの中で学んでいるか
- 視点4 「ふり返り」**
子どもが自分の実践をふり返り、自他の成長に気づくとともに、新たな課題に気づいているか

社会に開かれた教育課程の推進

自分たちの生活の問題を解決する学級活動、地域を素材にして課題を解決する総合的な学習の推進を図るには、本音で語り、本物から学ぶ教育課程にする必要があります。

そのために、普段から第6次教育振興計画の3つのキーワードに基づき、「社会に開かれた教育課程」をつくりだしてしていくことに努力をしています。



いのち

1年生がうさぎと触れ合う活動を通して生き物の温もりを感じ「命」を実感しています。



ちいき

伝統芸能クラブの子ども達が地域の尺八奏者から技を学び、本物と触れ合っています。

まなび

「転校していく仲間のために、何ができるだろう。」本音で語る中で、そもそも学級の生活が良くなる実感に包まれていきます。



研究同人

平成28年度

加藤 昭男	青柳 滋	鈴木 伸治	三浦 千恵	佐藤 友恵	沼澤 美佳
永井 牧子	大塚 由実	青山 弘子	高橋 武志	今野 高彦	鈴木 美穂
高橋 純子	三宅 香織	佐竹 陽一	石山 葉月	高橋 圭子	石川さとみ
今田 美知	佐藤美智子	熊谷 薫	片桐ちどり	板垣穂津美	高橋 智司
斎藤 里奈	佐藤 香	富樫美由紀	蜂谷 寛子	佐藤裕美子	

平成27年度

山澤 勉	大江 郁	軽部 一敏	山本 一人	阿部奈々恵	茂木ワカ子
樋渡 志穂	水戸部幸子				

平成27・28年度 天童市教育委員会委嘱研究

研究主題

自他のよさに気づき 豊かな生活を創りだす子ども



1・2年生(学級活動) / 3~6年生(総合的な学習の時間)



平成28年10月19日(水)

天童市立長岡小学校

新しい時代に生きるための礎をつくる

天童市教育委員会 教育長 相澤 一彦

7月に行われた参議院議員選挙は、選挙権年齢が引き下げられてから初の選挙となり、若年層の投票率が注目されました。蓋を開けてみれば、初めて投票権を得た18~19歳の若者の投票率は、20代や30代の投票率を上回る結果となり、選挙への参加を通じて社会づくりに関わる姿勢を育む主催者教育が、一定の成果を取ったものと感じられました。

選挙制度を知り、投票に参加することの意義を学ぶのは中学以降ですが、子ども達の公民的資質を養うのは、中学・高校の社会科学の学習に限るものではありません。小学校の低学年の特別活動の時間に学級会を開き、自分達のよりよいくらしづくりのために民主的な話し合いを行い、折り合いをつけ集団決定をする体験を積むところから、それはすでに始まっています。また、総合的な学習の中で、学びの対象を学校の外側にも広げ、「ひと・もの・こと」との関わりを意識して学習を進めることは、地域や社会の一員として生きる素地を確かにするものです。

長岡小学校の校内研究は、6年間にわたる特別活動の実践を下地にし、その上に総合的な学習の実践を積み重ねようとするものです。すでに50年を超える歴史のある「特別活動」と、21世紀の到来とほぼ時を同じくして登場した「総合的な学習」は、学習指導要領が改定されても引き続き力を注いで取り組むべき「不易なるもの」です。骨太の子ども達を育てるためには、次期学習指導要領の目玉としてスポットライトを浴びる「アクティブ・ラーニング」や「英語教育の強化」という新語に惑わされることなく、「不易」の部分を大切に骨太の教育課程が必要であると考えます。

社会の一員であることを自覚し主体的に社会に参画しようとする意欲、社会の変化に向き合い対応する柔軟性、社会を創り出していく創造力を子ども達の中に育むために、教育は何ができるのか。その答の一つになり得るのが長岡小学校の研究です。参観者一同、長岡小学校のこれまでの取組みと本日の授業に、しっかり学びたいものです。

最後に、この研究の推進に向けて適切なご助言・ご指導をくださった関係各位に対して心より感謝申し上げます。どうぞ忌憚のないご教授を賜りますようお願いを申し上げます。あいさつとさせていただきます。

学びの広がりや深まりを見つめて

天童市立長岡小学校 校長 加藤 昭男

7月も目前となった校舎内、梅雨時特有の多湿な空気を感じながら校舎内を歩いていると、あちこちの教室から暑さを吹き飛ばすような元気な話し合いの音が響いてきます。

低学年のあるクラスでは、最近多くなってきた『ちくちくことば』をなくして、みんなが気持ちよく過ごせる教室づくりを議題とした学級会が行われています。また、中学年のあるクラスでは、7月いっぱい長岡小学校を去ることになったK君とのお別れ集会の企画が立ち上がっています。高学年のあるクラスでは、総合的な学習の今後の展開について、子どもの司会を立てて話し合いをしています。長岡地区を舞台とした『ウォークラリー』と『アスレチック』のどちらに取り組むか、真剣な話し合いが続いています。

このように、クラスの日常のことを、互いの立場を明らかにしながら話し合いを積み重ねることで、一人一人が居心地のよい場を子どもの力で作るようになってきました。

その話し合いの力は、中・高学年が研究課題とする総合的な学習をはじめとして、各教科で学びを深めるプロセスで生かされています。

このように、学び合いを通して学級集団や学年集団が温かく成長してくることは、いわゆる支援の必要な発達課題を持つ児童にとっても、居心地のいい空間が提供されることにつながってきます。

自ら課題を見つけ、意欲をもって課題解決に取り組み、仲間との協働的な営みを通して次なる課題解決に取り組むという、まさに探究的な学習に日常的に取り組むことに、本校研究の価値を求めたいと考えて実践に取り組んでまいりました。

研究としては未だ道半ば、殊に総合的な学習を中・高学年の柱としてまだ2年目です。ご参会の皆様からのご指導ご鞭撻を手掛かりに、今後も研究の歩みを進めて参りたいと思っております。どうぞ忌憚のないご教授を賜りますようお願いを申し上げます。あいさつとさせていただきます。

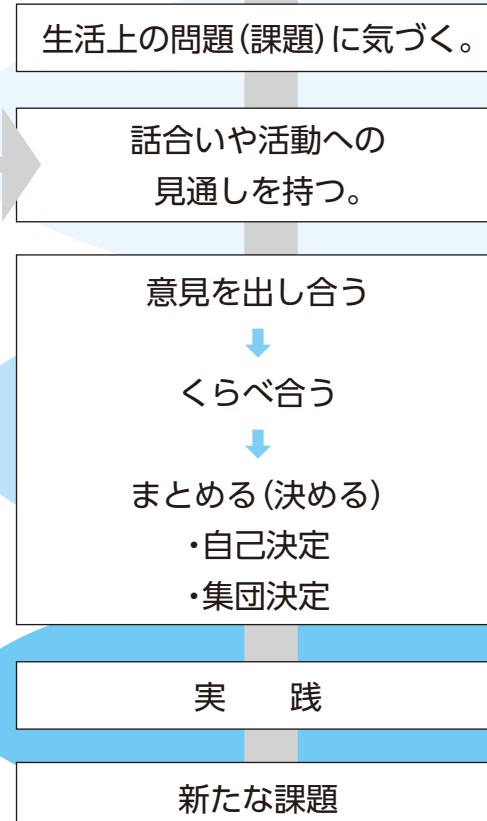
研究全体構想図

学校教育目標

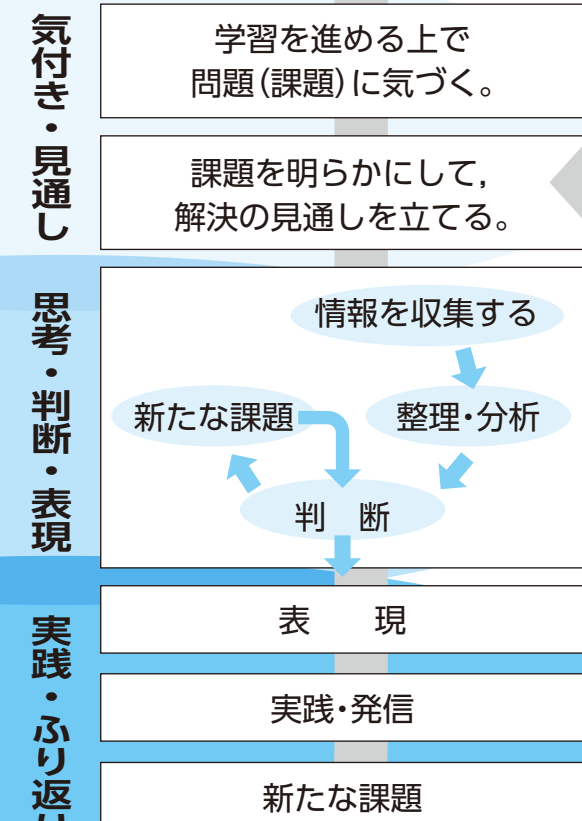
研究主題「自他のよさに気づき、豊かな生活を創りだす子ども」

- 視点1 「探究」**
子どもが地域・社会とかかわり、課題を見出し問題の解決に向けて自ら計画を立て生活しているか
- 視点2 「思考・判断・表現」**
子どもが失敗や自分と異なる考えに学び、さらによりよいものをめざして表現しているか
- 視点3 「つながり・かかわり」**
子どもが場や状況、相手に必要なことを考え、つながり・かかわりの中で学んでいるか
- 視点4 「ふり返し」**
子どもが自分の実践をふり返し、自他の成長に気づくとともに、新たな課題に気づいているか

学級活動



総合的な学習の時間



※探究的に、学習が展開していく。

総合 4年1組 「長岡 きれい隊！」

～今年取り組むテーマを決めるために～

テーマを決めるために、やってみたいことについて企画書を作りました。互いにその企画書を出し合い、4つの条件(①学級のめあてに近づけそうなもの ②みんなで取り組まないといけないもの ③取り組むことで力がつきそうなもの ④本やインターネットで調べても分からないもの)に照らし合わせながら話し合いました。条件一つ一つは大きいくくりでしたが、話し合っていくうちにそれぞれの項目が具体的にになり、やりたいことの共通点にも気づくことができました。また、事前に地域を探索することで地域に対する興味・関心が高まり、地域を土台としたテーマ設定にしばられていきました。



学級活動(1) 2年3組 「お日さま(学級目標)集会をしよう」

～思考力・判断力を育む学習環境の工夫(板書)～

クラス替えがあり、新しい友だちと仲良くなるために、「お日さま集会」をすることにしました。そこで話し合いの「柱1」として、集会でどんなことをしたいか、「柱2」は、そのためにどんな係が必要か、と事前に司会団と相談して決めました。しかし、当日の話し合いでは、「柱1」を話し合っている場面でも「柱2」の内容にまでふれる意見が多く出され、話し合いが混乱していきました。そこで、教師が黒板係の子どもたちとともに、「やりたい理由」「そのための必要な係」というように、短冊に記しあらためて整理していきました。整理したことで柱1と柱2の内容が、焦点化されてきました。意見を可視化し整理していくことは、子どもたちが思考・判断していくための、学習環境面からの大事な支援であることを学びました。



総合 5年1組 「5の1花いっぱい運動を広げよう」

～探究的に学習が展開していくために～

学級独自の花いっぱい運動を実行するために、クリアしなければならない問題点について話し合いました。事前に「どんな花を植えるか」「プランターはどうするか」「土はどうするか」等の問題点が出てきました。グループごととしましたが、一つのことを話し合っていくと他の問題点とつながり、全体で話し合うことになりました。しかし、それでもなかなか解決には結びつきませんでした。学習対象(ひと・もの・こと)をもっと焦点化すること、絡み合っている問題点を整理することへの適切な支援があれば、課題が明確になり、探究的に学習が展開されたのではないかと事後の研究会で話し合われました。



総合 6年2組 「耀きを伝えよう」

～他教科との関連を図りながら～

修学旅行先で天童の耀きを伝え、一人でも多くの人にきてもらおうと考え「天童をPRしよう」とパンフレット作りに取り組みました。具体的にどこで、だれに渡すのかをイメージして作ることで、より内容に深まりのあるものになりました。国語の『町のよさを伝えるパンフレットを作ろう』という単元と関連して進めたので、魅力が伝わるには「正確な情報」「レイアウト」「キャッチコピー」「文字・色・絵・写真」の4つの観点の必要性を十分に理解した上で活動することができました。他教科と関連付けて進めることで、より学びが深まりました。



これまでの実践から (子どもの育ちと私たちの学び) 思考・判断・表現

探究

学級活動では

- 議題が本当に子どもの願いに合ったものかを吟味すること
- 「やってよかった、話し合ってたよかった」という実感を低学年から積み上げること
- 子どもが判断し、自己決定・集団決定することを大切にする

総合的な学習の時間では

- 子どもにとって魅力ある単元計画になるように教師が学習の広がりを予想すること
- 思考ツールの有効性(思考の可視化と整理、理由の明確化、友だちと協働的にかかわり合いながら自分ごととして話し合える等)を理解した上で活用すること
- 「何を」「だれに」「なんのために」といった目的意識・相手意識を明確にしながら追究していくこと
- 話し合うことの必要感、子どもと教師の意図のずれはないかを吟味すること

ふり返し

つながり・かかわり

学級活動(1) 1年2組 「ながればししゅうかいをしよう」

～ふり返しをいかし、よりよい生活へ～

前の集会で、「全員が楽しめなかった」というふり返りが子どもたちから多く出されました。そこで、「みんなが楽しく仲よく」なることをめあてに、再度遊びを決める話し合いをしました。以前の失敗を、理由をつけて話せる子、めあて達成のために積極的に意見を述べる子がたくさんいました。体験を通したふり返しを大事にすることは、次は、よくしようという話し合いの本気度を高めます。自分達でよりよい生活にしようという意欲が高まります。低学年から育てていきたい、大切な力の一つであることを確認しました。



総合 3年1組 「かがやくにじをかけよう！ ～にじの花をさかせよう～」

～解決したいことを焦点化するために～

子どもたちは、どの子も「にじの花を咲かせたい」という思いで、花の種をまきました。その後心配だと思ふことや解決しなければいけない問題を出し合い、ピラミッドチャート(優先順位を問うために思考するツール)をつかってグループごとに話し合いました。お互いの付箋をじっと見ながら一番最初に解決すべき問題を考えました。しかし、どの問題も子どもたちにとって心配なことであり、そこから一つに絞ることは難しいことだったようです。決め手となる明確な観点を示すことで、みんなが納得できる話し合いができたのではないかと事後の研究会で話し合われました。



生活単元学習 おひさま学級 「ミニトマトを育て、ピザを作って収穫祭をしよう」

～かかわりを通して、成長する自分・なかまへ～

自分たちが育てたミニトマトでピザを作り、収穫祭をする活動です。調理の場面では、子どもたちだけで進められるように、作業の手順を写真などで可視化したり、調理器具の名前や場所を明記したりした環境面からの支援を行いました。お互いに関わりが必要な場面を設定することで、相談したり、教えあったりすることが多く見られピザを完成させることができるようになりました。人とかかわりを積み重ねる問題を解決していくことで、自信と自立につながる活動になりました。

